



月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	17	18	19	20	21	22
23	21	22	23	24	25	26
27	28					

■塗りつぶしの日には休館です。



『世界の絶滅危惧食』

ダン・サラディーノ/河出書房新社/383.8 サラ

人類が長い年月をかけて築いてきた食文化や食物の多くが絶滅の危機に瀕している。世界各地の34の「絶滅危惧食」と、それらを絶滅から救おうとしている人々の物語を、環境破壊などの問題とともに描き出す。

絶滅危惧「種」があれば絶滅危惧「食」も…。私たちに欠かせない食の未来を見つめ直す一冊。



『まちよみ・またよみ』

内田早苗/岩崎書店/019.5 ウチ

子どもの持つ力を信じて「ただ待つだけ」で、親も子どももどンドンいい方に変わっていく！絵本を使った子育て法を紹介。絵本の読み聞かせ「待ちよみ」と妊娠期から赤ちゃんに読み聞かせる「またよみ」の疑問にも答える。

『読書道楽』

鈴木敏夫/筑摩書房/019 ス

幼少期に四畳半で読んでいた少年漫画誌・児童文学。大学時代、学生運動の最中に出会った詩と文学。高畑勲・宮崎駿と出会ってから読んだ日本文化論・文学…。スタジオジブリのプロデューサーによる、半自伝的読書録。

『つながりの哲学的思考』

米山優/筑摩書房/104 ヨネ

古典を読み味わうことは哲学を学ぶうえで欠かせない。読書という営みから、本と本とのつながり、過去・現在・未来のつながり、文化を超えたつながりにまで思考を広げることで、哲学的に考えることがなぜ大切なのかを説き明かす。

『「覚える」と「わかる』』

信原幸弘/筑摩書房/141.1 ノ

「理解する」とはどういうことか？ 空気を読む際、私たちの頭と感覚は何をどう察知しているのか？ 丸暗記、身体で覚える、まねるといった学習の基本から、直観、批判的思考、知の可能性までを探る。

『“承認欲求”捨ててみた』

諸富祥彦/青春出版社/146.8 モロ

他人の目を気にして、いつもビクビクしながら生きている人に向けて、9ステップの自己改造プログラムを紹介。さらに承認欲求の正体を心理学的な視点から説明するほか、人を愛せないという悩みと承認欲求の関係なども解説する。

『港町巡礼』

稲吉晃/吉田書店/210.6 イチ

島国日本にとって海外への唯一の窓口であった港。近代日本の政治と社会のエッセンスが凝縮された場所として港町を捉え、函館、東京、横浜、舞鶴、神戸、下関、長崎、基隆など各地をめぐることで、日本の近代を描く。

『ガラスの来た道』

小寺智津子/吉川弘文館/220 コチ

古代西アジアで発明され、東方にもたらされたガラス製品は、どのような人物が入手し、そこにはいかなる意味があるのか。シルクロードの東西交渉や日本と大陸の交流などを、ガラスから読み解き、古代の人々の活動を映し出す。

『「心のクセ」に気づくには』

村山綾/筑摩書房/361.4 ムラ

人間には「ついこう考えてしまう」クセがある。時には、そのクセが困った事態を引き起こすことも。心のクセについて社会心理学の研究結果に触れながら説明し、心のクセに気づけた私たちが今後どう考え、行動するかを思索する。

『名画のティータイム』

Cha Tea 紅茶教室/創元社/383.8 チャ

お茶を知れば、絵画鑑賞はもっとときめく！紅茶のプロフェッショナルによる、17世紀から19世紀ヴィクトリア朝までの紅茶文化史入門。紅茶がたどった歴史や文化を60の名画からひも解く。

『ふしぎで美しい水の図鑑』

武田康男[文・写真]/緑書房/452.9 タケ

姿を変えて世界を彩る水。川、湖沼、地下水、温泉、渦潮、雲、雨、雪、氷、霜、霧。水がつくる豊かな姿を、美しい写真とともに紹介する。簡単な実験、気象用語の解説、環境問題などを取り上げたコラムも掲載。

『自分で押せるツボ』

柳本真弓/ナツメ社/492.7 ヤナ

疲れをやわらげるツボ、体の不調に効くツボ、心の不調に効くツボ、痛みを効くツボ、女性特有の悩みに効くツボを、写真とスケルトンイラストでわかりやすく解説。マッサージやストレッチを取り入れたツボルーティーンも収録。

『余った毛糸で何つくる?』

ブティック社/594.3 フテ

ちょっとだけ余っている毛糸を活用できる、かぎ針編みのアイデアレシピ集。レトロなお花のコースター、簡単スクエアポーチ、シンプルなトートバッグ、細編みのミトンなど、かわいい小物を紹介します。

『捨てない未来』

枝元なほみ/朝日新聞出版/596 イチ

「食べて生きていく」という人の営みのおおもとをおおらかに肯定しながら、子どもたちに残すべき地球の未来を守るフードロスについて、料理研究家・枝元なほみが考える。京都大学准教授・藤原辰史との対談も収録。

『絶品パイ料理』

カラム・フランクリン/グラフィック社/596.2 フラ

“パイの帝王”カラム・フランクリンのレシピ本。家庭やレストランで再現できる、繊細でおいしい食事パイとデザートパイを紹介する。基本の道具&パイ作りのテクニックなども掲載。



『君のいた時間』

伊集院静/講談社/645.6 イシ

出逢えば別れは必ずやって来る。それでも出逢ったことが生きてきた証しであるならば、別れることも生きてきた証しなのだろう…。愛するペットを失ったすべての人へ送るエッセイ集。『週刊現代』連載を抜粋・修正して単行本化。

『切手デザイナーの仕事』

間部香代/グラフィック社/693.8 マハ

日本の切手をつくる8人のデザイナー。8人の個性は異なり、デザインのスタイルもそれぞれ違う。8人8様の想いと仕事を紹介する。切手制作の流れなどを説明したコラムも掲載。

『小さな芸術』

ウィリアム・モリス/月曜社/704 モリ

英国のデザイナー、ウィリアム・モリスの思想を伝える論集。1は、「小さな芸術」「民衆の芸術」「芸術の目的」など、1870年代終わりから1880年代にかけて行われた芸術と労働、自然をめぐる講演8篇を収録する。

『まいにちゆるふで』

ふでこ/日東書院本社/728 フテ

筆ペンで文字を書き、カラフルな筆ペンでイラストを描く、「ゆるふで」。12か月のゆるふでアイデアや、大切な誕生日・お祝いでの作品などを多数紹介。筆ペンの作品が上手に見えるコツもわかりやすく解説します。

『話が進む仕切り方』

沢渡あまね/技術評論社/809.6 サワ

会議が毎度お偉いさんのリサイタル、突然、意見を求められて「シーン」、話が脱線したつきり、戻ってこない…。うまくいかない場を動かし、成果へ導く“いまずぐ使える”90の秘伝を紹介する。

『「日本人の日本語」を考える』

庵功雄/丸善出版/810 イチ

日本語母語話者にとっての「やさしい日本語」とは？ 専門家と非専門家のコミュニケーション、行政、ビジネス等で求められる日本語や、これからの日本社会にとっての日本語の姿などを考察する。

『作家超サバイバル術!』

中山七里/光文社/901.3 ナカ

今をときめく人気作家3人が、「作家と新人賞」「作家とおカネ」「作家と映像化」「作家とSNS」など10のテーマを、それぞれの経験をもとに綴る。特別鼎談も収録。『小説宝石』連載を単行本化。

『文学は予言する』

鴻巣友季子/新潮社/904 コウ

トランプ政権誕生で再びブームとなったディストピア小説、ギリシャ神話から18世紀の「少女小説」まで共通する性加害の構造…。危機の時代を映し出す世界文学の最前線を読み解く。『朝日新聞』『新潮』ほか掲載を書籍化。

『なまえは語る』

新津きよみ/実業之日本社/Fニイ 文庫

無断で出生届を出した義姉。赤ん坊の命名にこだわった驚愕の理由は…。すべての人に一生ついて回る「なまえ」を巡る短編ミステリ傑作選。鮮やかなトリックと、濃やかな心理ドラマに息をのむ、8つの物語。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

図書館ホームページへ



行事予定は裏面へ



